

西郷村の望ましい教育環境のあり方に関する
アンケート調査

調査報告書

2025 年 9 月
西郷村教育委員会

目次

【第 1 章】アンケート調査実施の目的	1
【第 2 章】調査の概要	1
【第 3 章】調査結果	3
【3-1】回答者の属性	3
【3-2】将来の姿、望ましい教育環境	5
【3-3】小学校について	8
【3-4】中学校について	11
【3-5】地域の学校・複合化について	14
【参考】本アンケート調査の精度（標本誤差・信頼度）について	15

【第 1 章】アンケート調査実施の目的

全国的に少子高齢化が進む中で、西郷村でも児童生徒数の減少が緩やかに進んでいます。また、学校施設の老朽化への対応、情報化、国際化といった新しい教育ニーズへの対応など、多様な教育ニーズに適した教育環境づくりが求められています。

西郷村では、令和 4 年度に学識経験者、PTA 代表、学校運営協議会（地域代表）、学校関係者からなる西郷村学校適正化配置検討委員会を組織し、これからの学校規模の検討に取り組みました。そして令和 5 年度に当委員会から、『今後 10 年から 20 年で、できるだけ早い時期に 小学校を 3 校とするのが望ましい、中学校を 1 校とするのが望ましい』との提言をいただきました。

令和 6 年度からは、保護者、教職員、中学生、地域の方などとの意見交換を通し、今後の西郷村にとって望ましい教育環境のあり方の方針づくりに取り組んでいます。方針を検討する基礎資料として、保護者の方や村民の方の意見を広く調査するために本アンケート調査を実施しました。

【第 2 章】調査の概要

本アンケート調査の対象者、配付方法、回収状況等は次のとおりです。

表 1 アンケート実施状況

項目	内容
調査名	西郷村の望ましい教育環境のあり方に関するアンケート調査
調査対象	次の①、②からなる合計 3,666 名にアンケート調査を実施した。 ①0 歳～15 歳（中学 3 年生）までのお子さんのいる保護者の方 $N_1 = 1,666$ ②その他、18 歳～79 歳までの村民から無作為抽出された方 $N_2 = 2,000$ （基準日：2025 年 7 月 1 日）
配付方法	学校を通した配付と郵送との併用
回答方法	Web フォーム回答、紙面回答との併用
調査期間	令和 7 年 7 月 16 日(水)～令和 7 年 8 月 18 日(月)
回答数及び回収率	総数 1,002 件 ($1,002/3,659 = 27.38\%$) ※②のうち 7 通不達 ①回答数 533 件 ($533/1,666 = 31.99\%$) ②回答数 462 件 ($462/1,993 = 23.18\%$) ①、②分類不可 7 通

本アンケート調査の調査項目は次のとおりです。

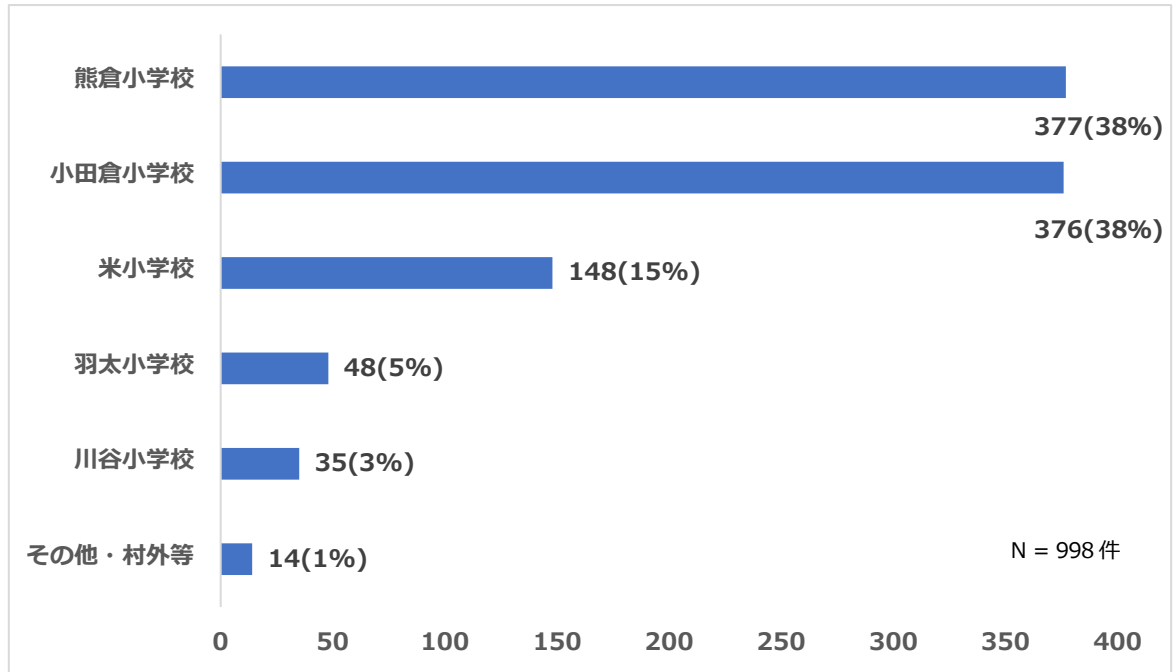
表 2 アンケート調査項目

調査項目	内容
回答者の属性	居住する学区（質問 1）、お子さんの就学状況（質問 2）、年齢（質問 3）
将来の姿、望ましい教育環境	子どもたちに期待する将来の姿（質問 4） 力を入れて欲しい教育内容（質問 5(1)～(4)）
小学校について	小学校の課題への対応（質問 6） 小学校の統合への考え（質問 7、質問 8、質問 9） 自由意見（質問 10）
中学校について	中学校の課題への対応（質問 11） 中学校の統合への考え（質問 12、質問 13、質問 14） 自由意見（質問 15）
地域の学校・複合化について	地域における学校の役割（質問 16） 住民に開放される施設で希望するもの（質問 17）

【第3章】調査結果

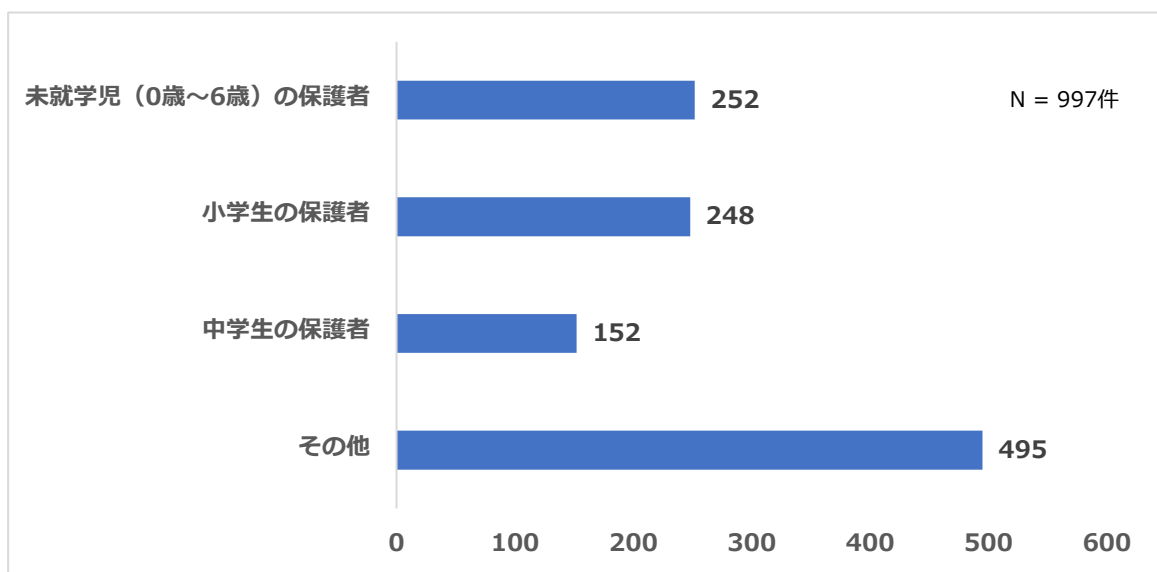
【3-1】回答者の属性

質問1 お住いの小学校区（1つ選択）



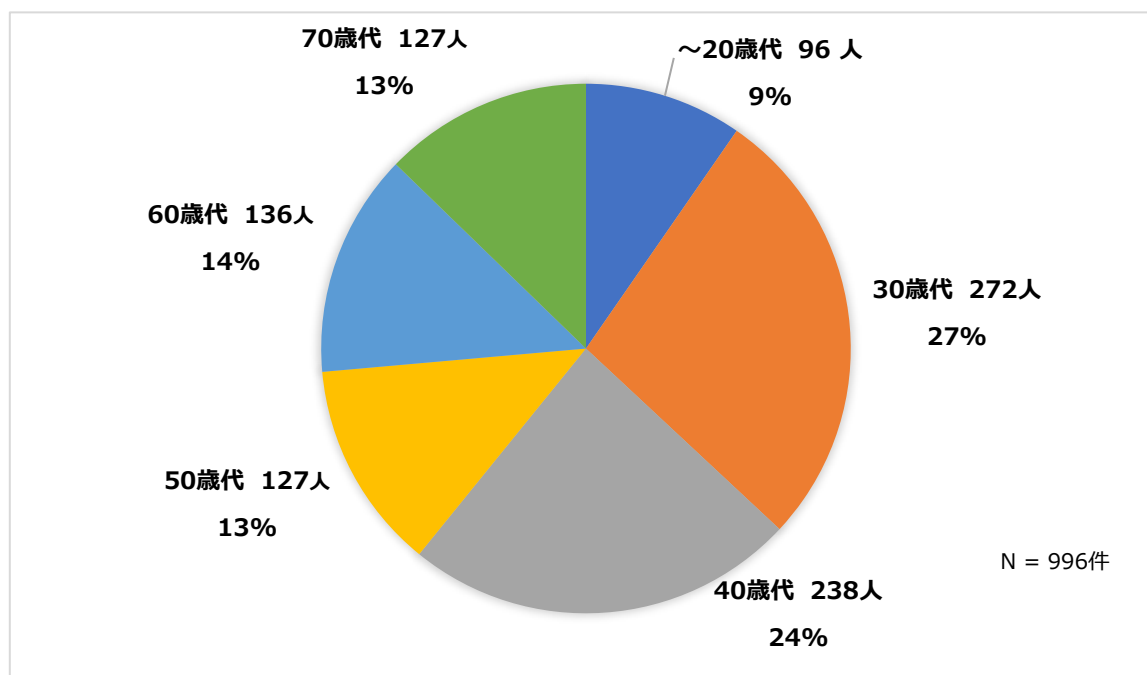
アンケートを回答された方の住んでいる小学校区は、熊倉小学校と小田倉小学校が共に 38%と多くを占めています。

質問2 お子さんの就学状況（複数選択）



アンケート回答者のお子さんの就学状況を調査しています。

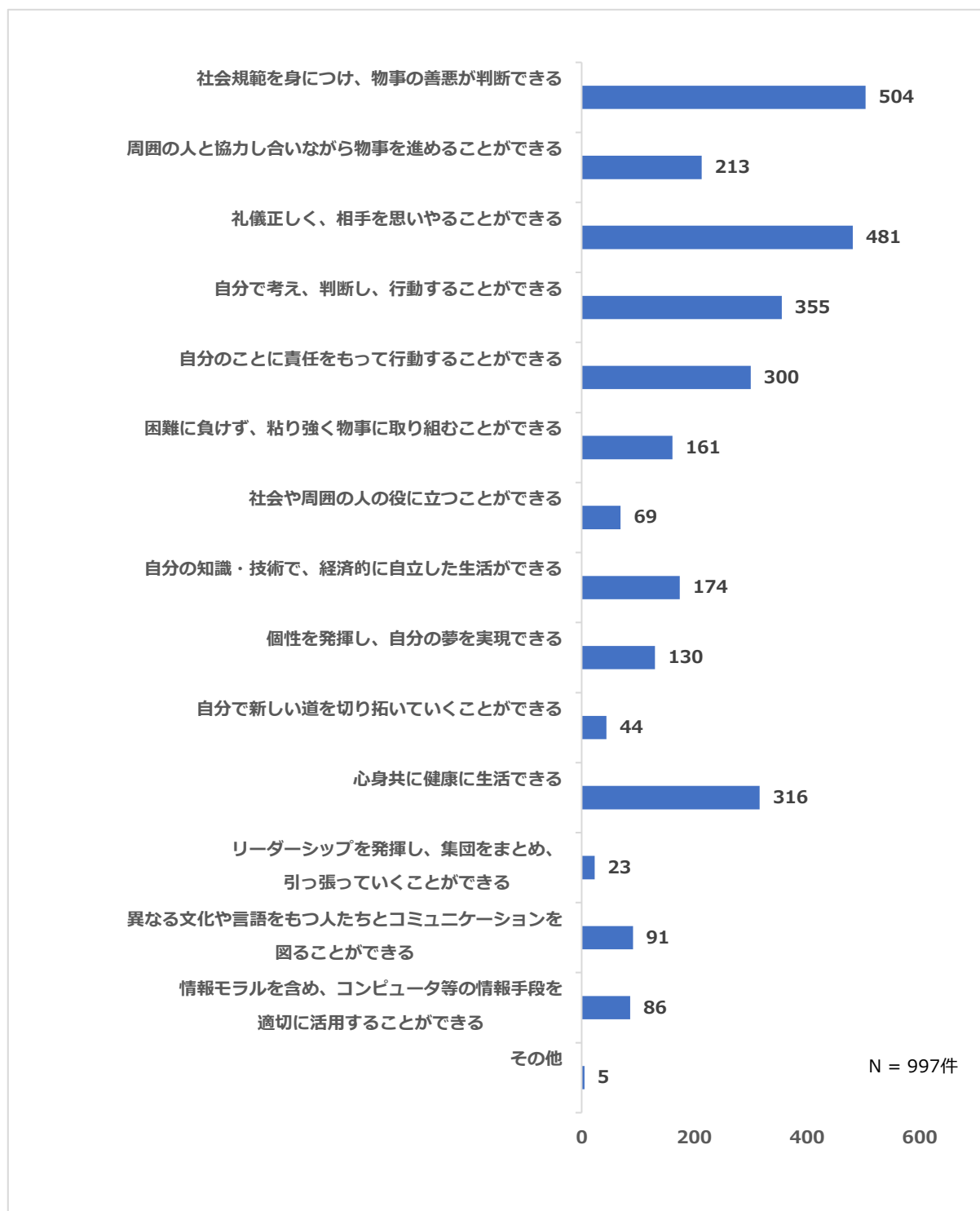
質問 3 回答者の年代 (1 つ選択)



アンケート回答者の方の年代を調査しました。義務教育までの保護者の方へアンケートを重点的に配付しているため、30歳代と40歳代の方で合わせて51%と多くなっています。

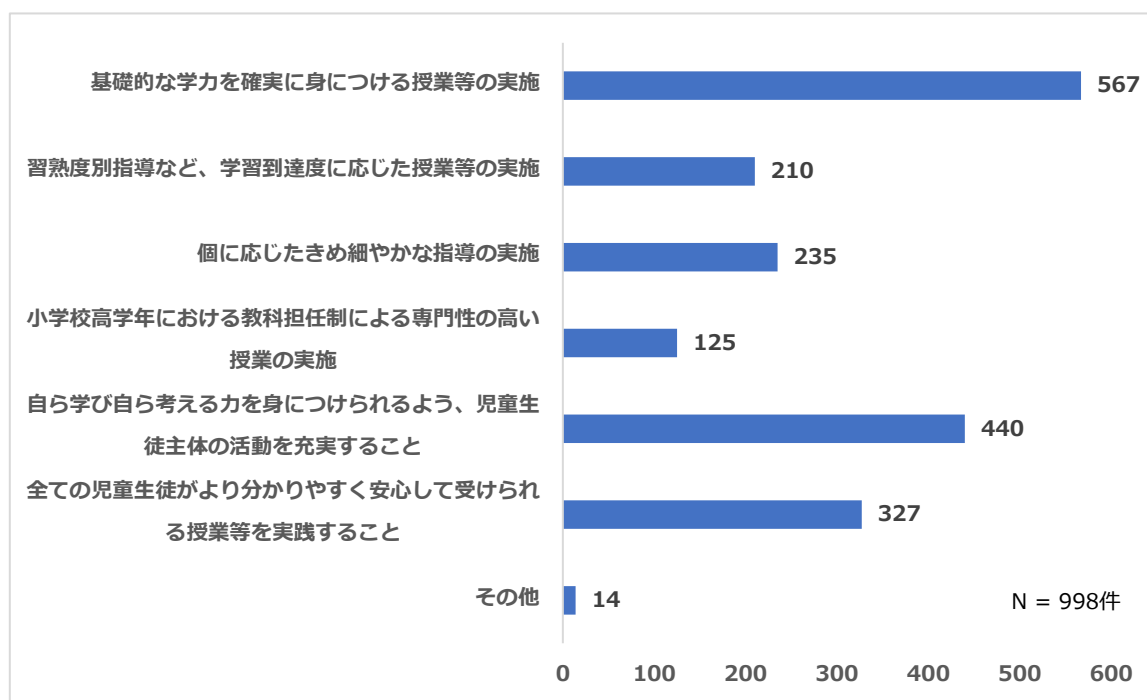
【3-2】将来の姿、望ましい教育環境

質問 4 子どもたちに期待する将来の姿（3 つまで選択）



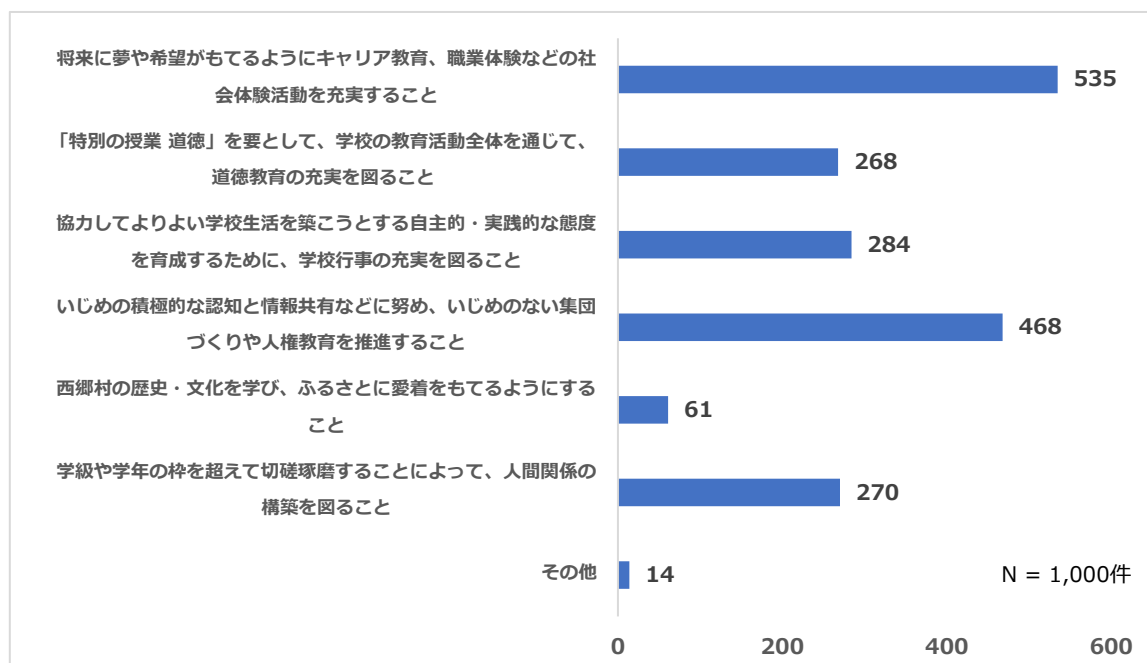
西郷村の子どもたちに期待する将来の姿を調査しました。「社会規範を身につけ、物事の善悪が判断できる」、「礼儀正しく、相手を思いやることができる」、「自分で考え、判断し、行動することができる」の3項目が特に望まれています。

質問 5-(1) 力を入れて欲しい教育内容（学力）（2 つまで選択）



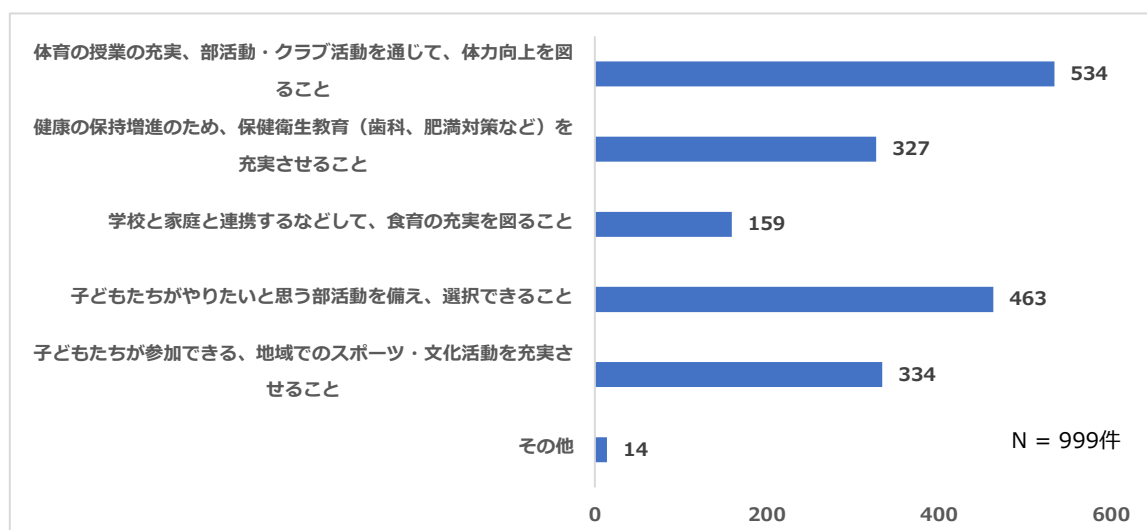
力を入れて欲しい教育内容として「基礎的な学力を確実に身につける授業等の実施」、「自ら学び考える力を身につけられるよう、児童生徒主体の活動を充実すること」が望まれています。

質問 5-(2) 力を入れて欲しい教育内容（心力）（2 つまで選択）



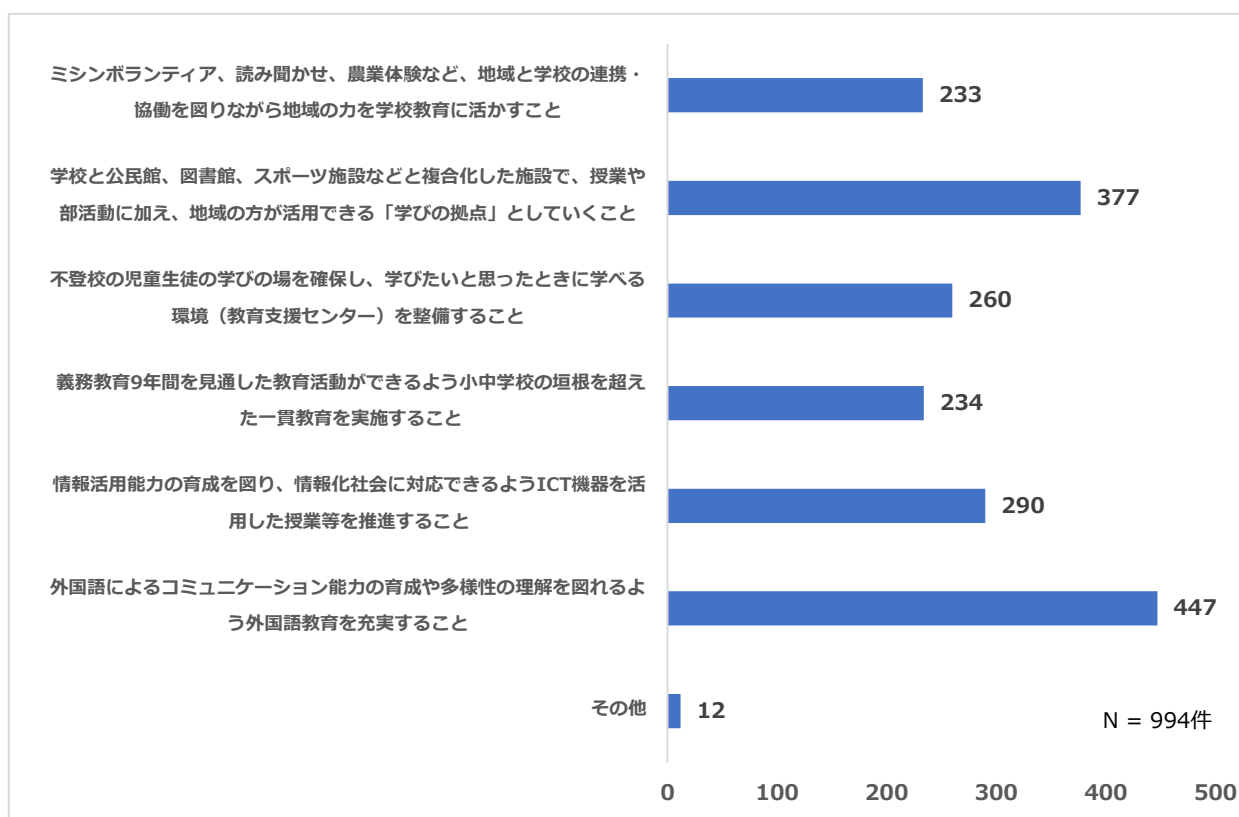
力を入れて欲しい教育内容として「将来に夢や希望がもてるようにキャリア教育、職業体験などの社会体験活動を充実すること」、「いじめの積極的な認知と情報共有などに努め、いじめのない集団づくりや人権教育を推進すること」が望まれています。

質問 5-(3) 力を入れて欲しい教育内容（体力）（2 つまで選択）



力を入れて欲しい教育内容として「**体育の授業の充実、部活動・クラブ活動を通じて、体力向上を図ること**」、「**子どもたちがやりたいと思う部活動を備え、選択できること**」が望まれています。

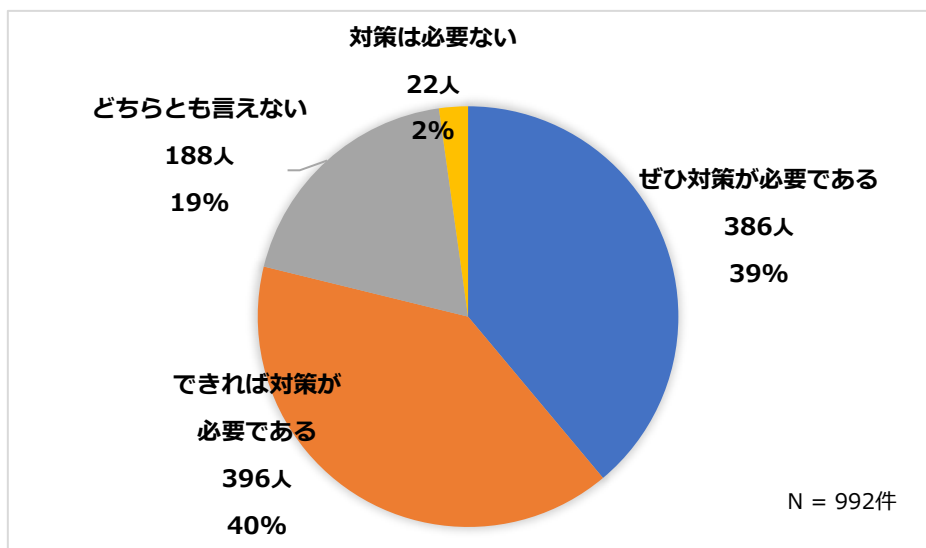
質問 5-(4) 力を入れて欲しい教育内容（特色ある教育）（2 つまで選択）



力を入れて欲しい教育内容として「**外国語によるコミュニケーション能力の育成や多様性の理解を図れるよう外国語教育を充実すること**」、「**学校と公民館、図書館、スポーツ施設などと複合化した施設で、授業や部活動に加え、地域の方が活用できる「学びの拠点」としていくこと**」が望まれています。

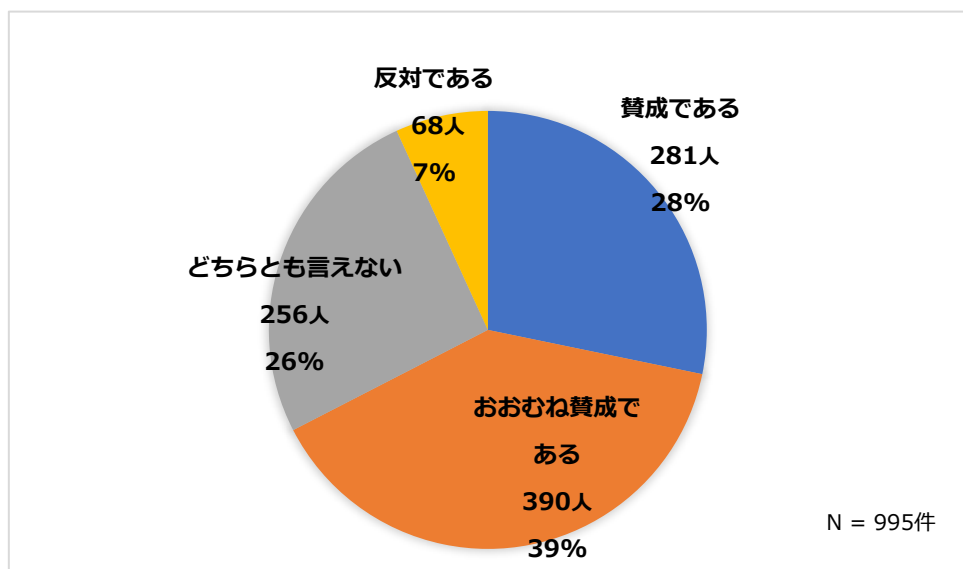
【3-3】 小学校について

質問 6 小学校の課題への考え（1 つ選択）



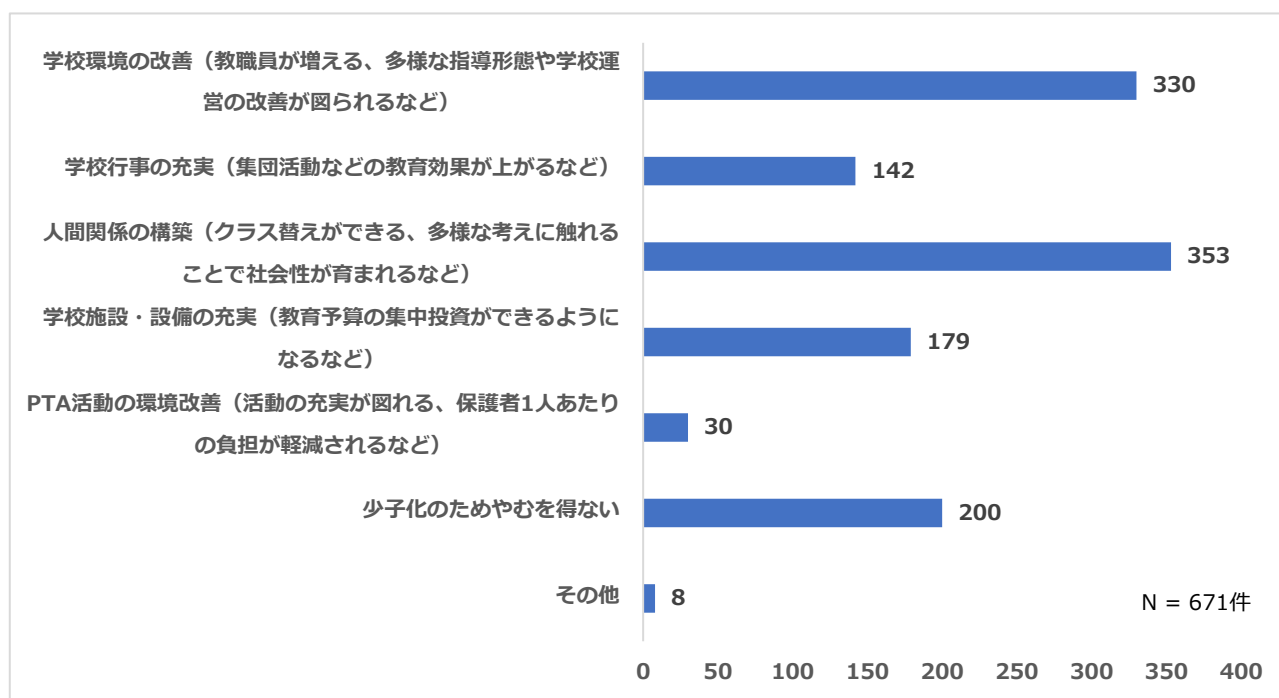
「西郷村の小学校における課題」（複式学級化、子どもたちの人間関係が固定化されるなど）について、「ぜひ対策が必要である」と答えた方が 39%、「できれば対策が必要である」と答えた方が 40%で、およそ 80%の方が対策は必要であると考えています。

質問 7 小学校の統合への考え（1 つ選択）



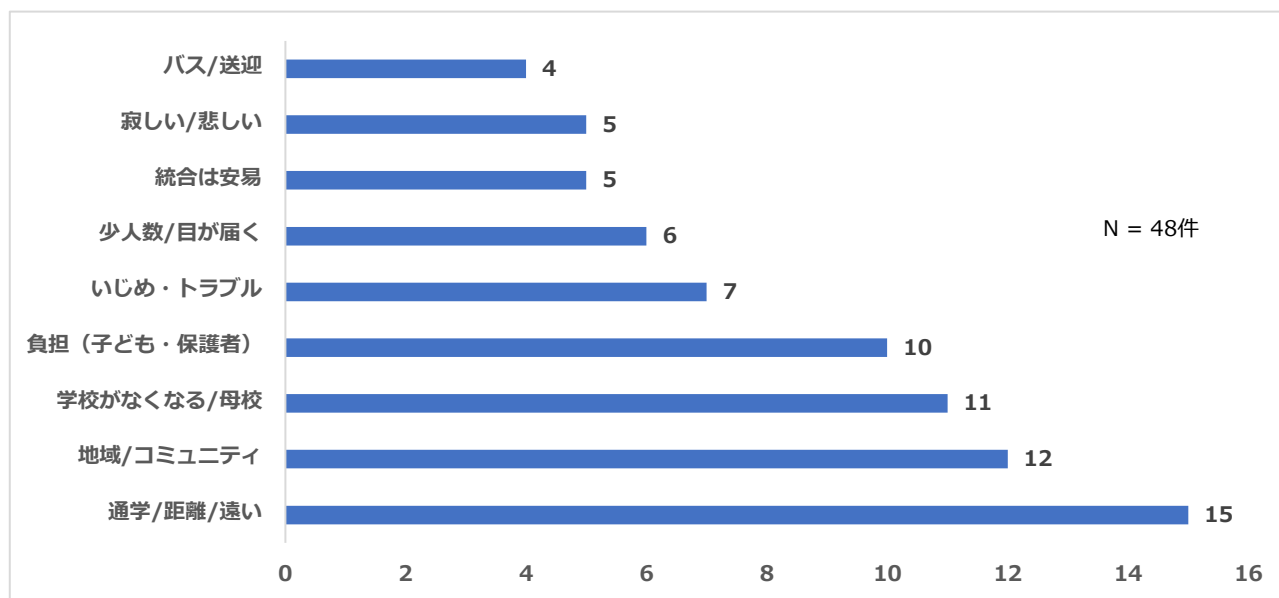
小学校を統合することについてどう考えるかという質問に対し、「賛成である」と答えた方が 28%、「おおむね賛成である」と答えた方が 39%で、およそ 67%の方が統合について肯定的な考えをお持ちでした。

質問 8 小学校の統合への考え 肯定的な理由（2 つまで選択）



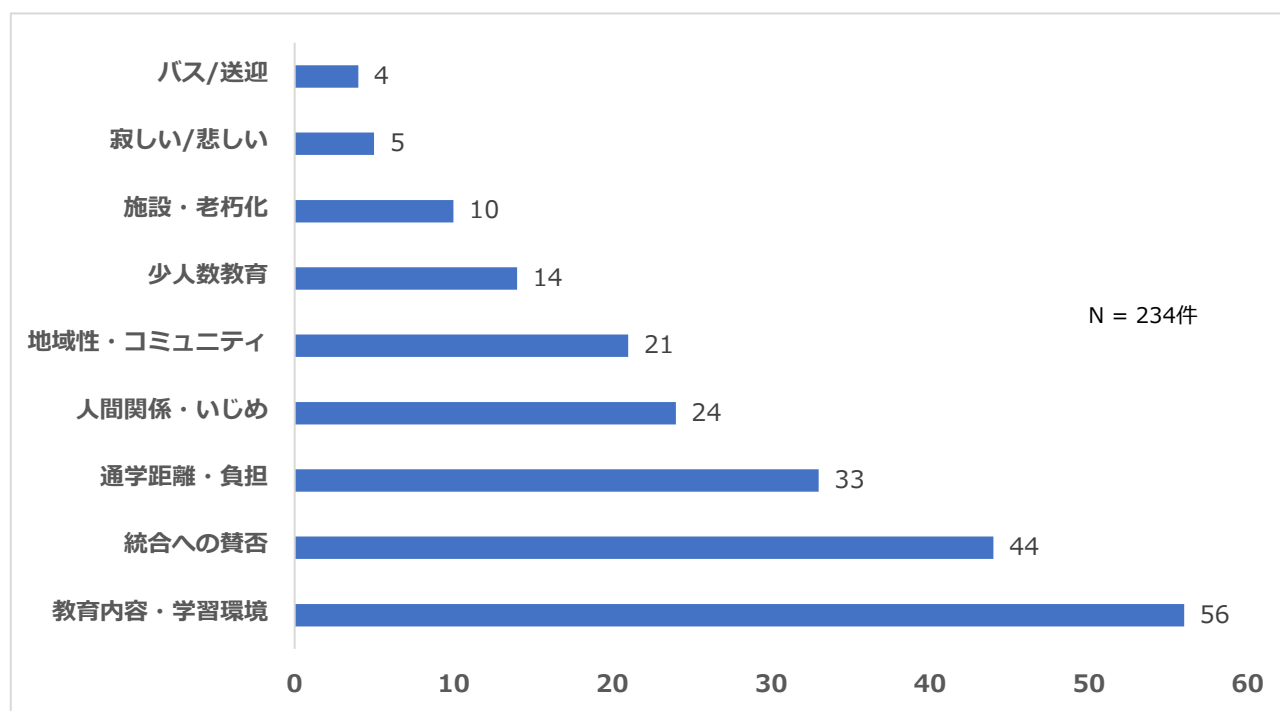
質問 7 で「賛成である」、「おおむね賛成である」と答えた 671 名の方に対し、統合に肯定的な意見を持つ理由を調査しました。「人間関係の構築」が最も期待されており、「学校環境の改善」が 2 番目に期待されています。

質問 9 小学校の統合への考え 反対の理由（自由記述）



質問 7 で「反対である」と答えた 68 名の方に対し、統合へ反対する理由をお聞きし、意見を分類しました。通学距離が遠くなることへの不安を答えた方が 15 名、地域やコミュニティへの不安を答えた方が 12 名、学校がなくなることの不安を答えた方が 11 名いらっしゃいました。

質問 10 小学校に対する自由意見（自由記述）

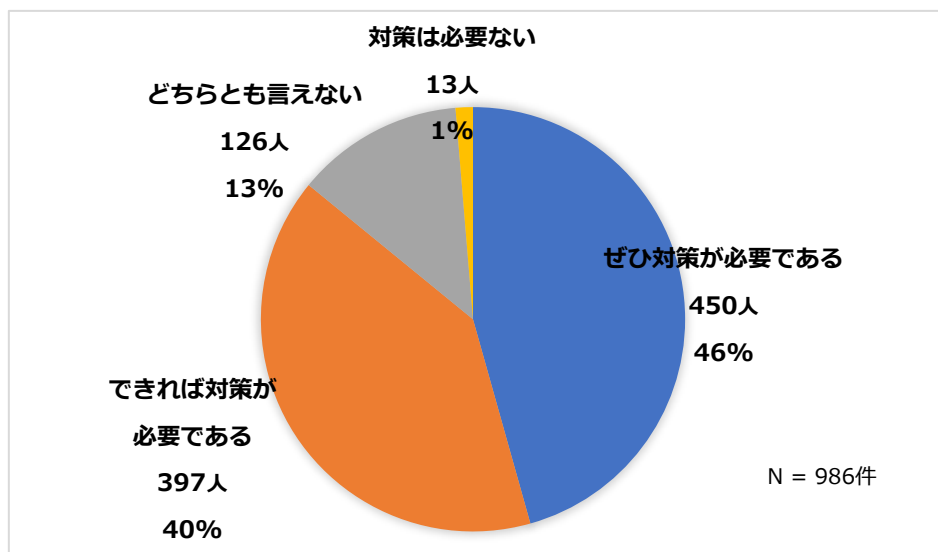


小学校に対する自由意見をお聞きしました。234 名の方から意見をいただきました。上のグラフは、意見の分類と件数をまとめたものです。分類ごとの意見の傾向としては次のとおりです。

意見の分野	意見の傾向
教育内容・学習環境	「一人一人に目が届く環境を」、「英語・異文化に触れる機会の充実」、「広い人間関係も経験させたい」、「学校ごとの差をなくす」 等
統合への賛否	賛成意見：「部活動や学校行事の活性化」、「教員数確保のため必要」 反対意見：「通学距離が伸びる」、「学校がなくなる」、「地域文化がなくなる」
通学距離・負担	「小学校は徒歩圏内で」、「バス通学や送迎が必要」、「クマ出没や交通安全面が不安」、「登下校は集団が望ましい」 等
人間関係・いじめ	「少人数だと人間関係が固定化してトラブルになりやすい」、「大規模だと目が届かず孤立のリスクが高まる」 等
地域性・コミュニティ	「学校がなくなると地域衰退に繋がる」、「地域の人も活用できる学校施設づくりを望む」、「地域と学校の関わりを維持して欲しい」 等
少人数教育	「少人数だから目が届く」、「少人数で井の中の蛙になることが心配」 等
老朽化・施設	「老朽化校舎への不安」、「冷暖房設備の充実」、「給食の充実を」 等

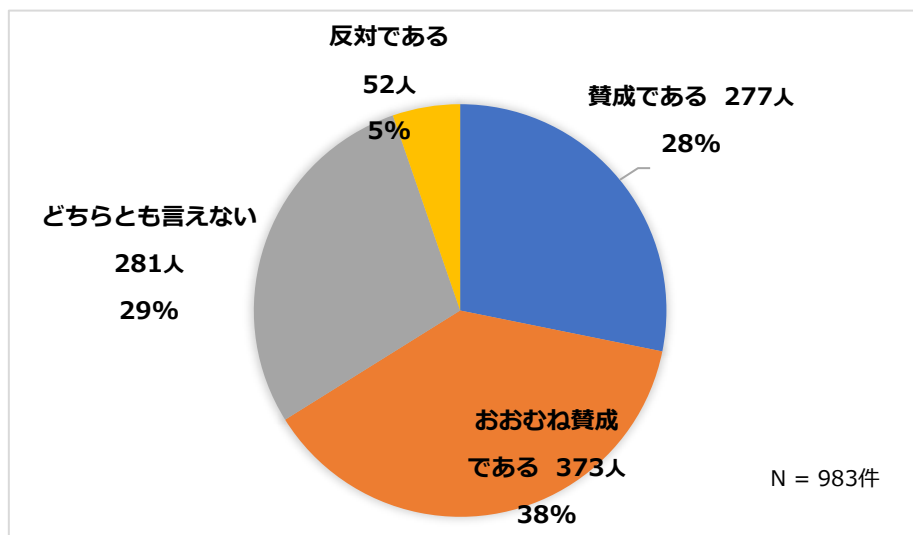
【3-4】 中学校について

質問 11 中学校の課題への考え（1 つ選択）



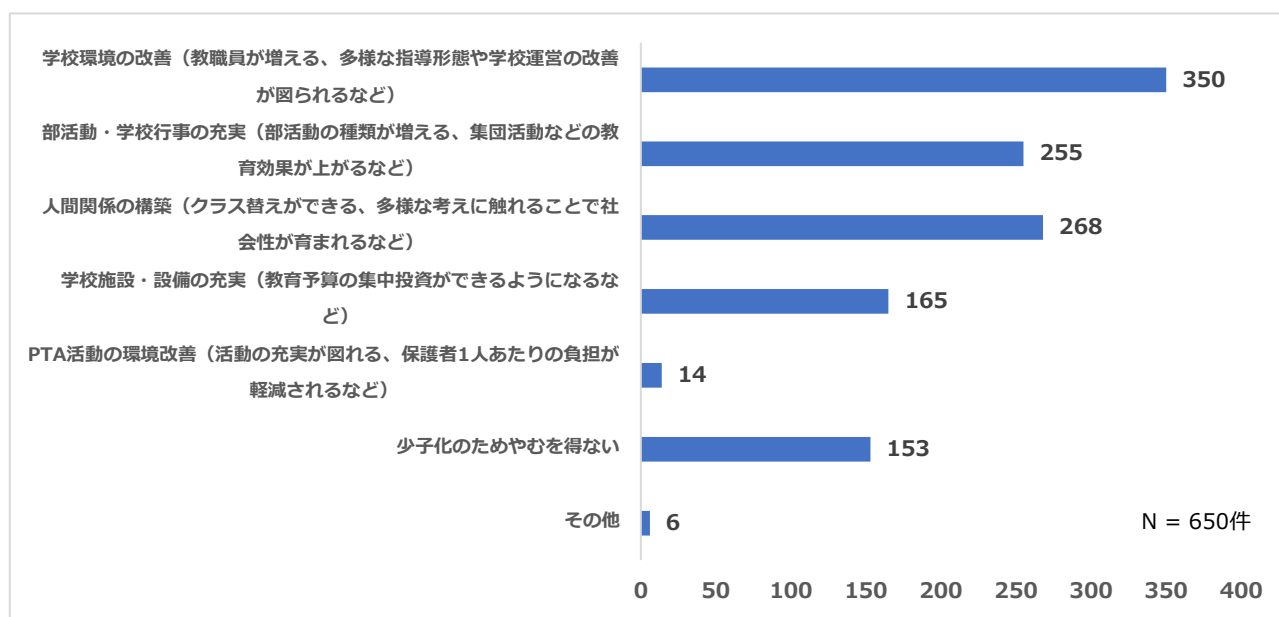
「西郷村の中学校における課題」（教員が揃わない、部活動の人数が揃わないなど）について、「**ぜひ対策が必要である**」と答えた方が **46%**、「**できれば対策が必要である**」と答えた方が **40%**で、およそ **86%**の方が対策は必要であると考えています。

質問 12 中学校の統合への考え（1 つ選択）



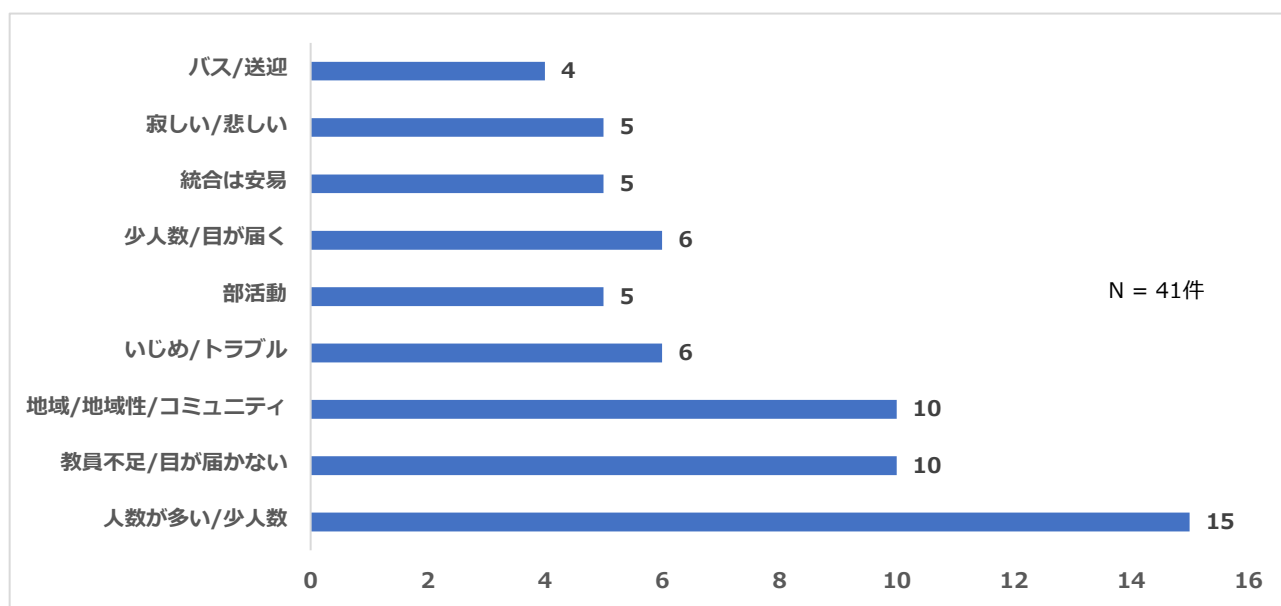
中学校を統合することについてどう考えるかという質問に対し、「**賛成である**」と答えた方が **28%**、「**おおむね賛成である**」と答えた方が **38%**で、およそ **66%**の方が統合について肯定的な考えをお持ちでした。

質問 13 中学校の統合への考え 肯定的な理由（2 つまで選択）



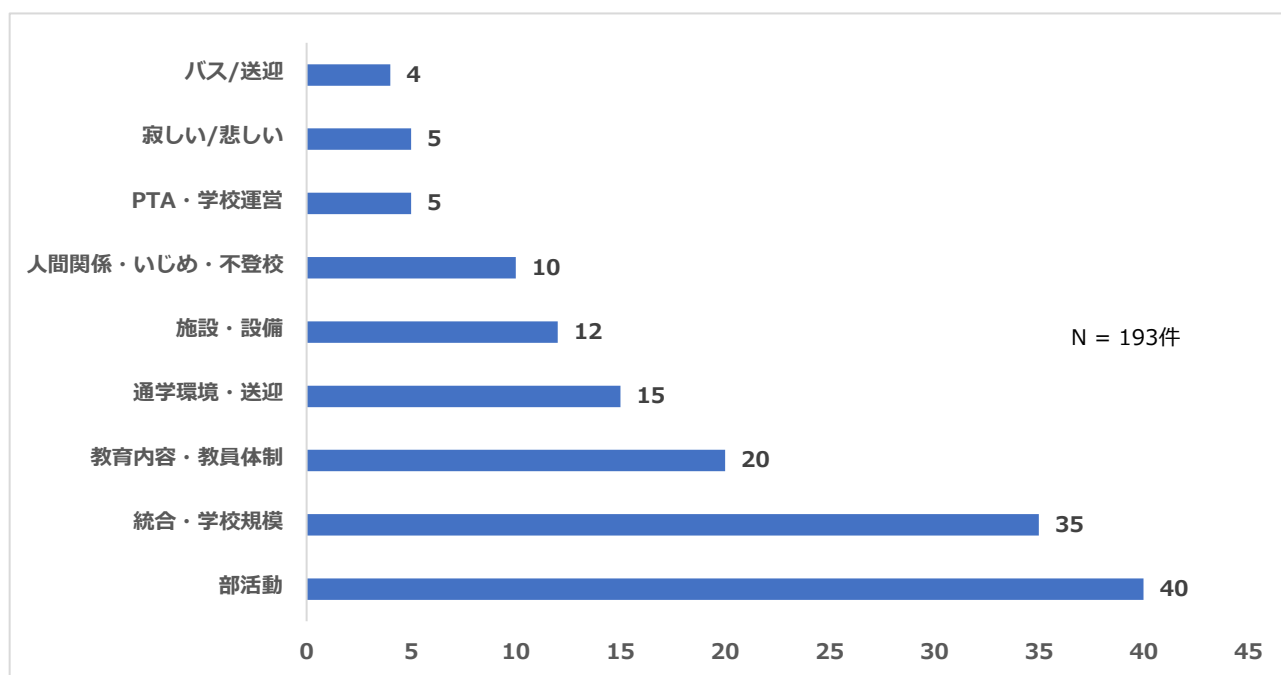
質問 12 で「賛成である」、「おおむね賛成である」と答えた 650 名の方に対し、統合に肯定的な意見を持つ理由を調査しました。「**学校環境の改善**」が最も期待されており、次いで「**人間関係の構築**」、「**部活動・学校行事の充実**」が期待されています。

質問 14 中学校の統合への考え 反対の理由（自由記述）



質問 12 で「反対である」と答えた 52 名の方に対し、統合へ反対する理由をお聞きし、意見を分類しました。人数が多くなることへの不安、少人数の環境を望む方が 15 名、教師不足や子どもへの目が届かなくなるのではないかと不安を答えた方が 10 名、地域やコミュニティへの不安を答えた方が 10 名いらっしゃいました。

質問 15 中学校に対する自由意見（自由記述）

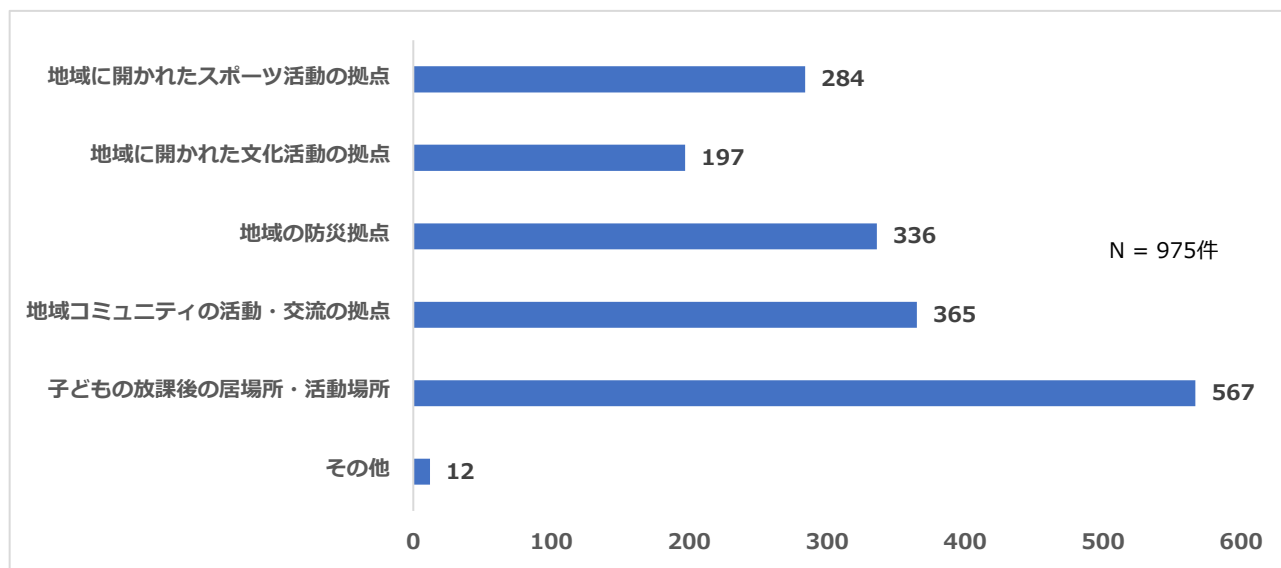


中学校に対する自由意見をお聞きしました。193 名の方から意見をいただきました。上のグラフは、意見の分類と件数をまとめたものです。分類ごとの意見の傾向としては次のとおりです。

意見の分野	意見の傾向
部活動	「少人数で廃部、種目が選べない」、「教員の負担が大きいので外部指導者活用を」、「任意加入にしてほしい」、「選択肢を増やしてあげたい」 等
統合・学校規模	賛成意見：「少子化を踏まえ統合は必要」、「新しい災害に強い校舎を」 反対意見：「通学距離が伸びる」、「1 校では不便」、「通学の支援が必要」
教育内容・教員体制	「全教科の専門教員を揃えて欲しい」、「学力向上・進路指導・生活指導の充実」、「学力低下を防ぐ」、「教員の質・対応を向上させる環境」 等
通学環境・送迎	「自転車通学の危険性」、「放課後の待機場所が欲しい」、「雨の日の送迎負担」、「学区ごとで送迎しては」 等
施設・設備	「施設老朽化」、「体育館にエアコンを」、「図書館や運動施設の充実」 等
人間関係・いじめ・不登校	「いじめ早期発見・対策強化」、「不登校の子のための学習の場」、「コミュニケーション力と社会性を育む」 等

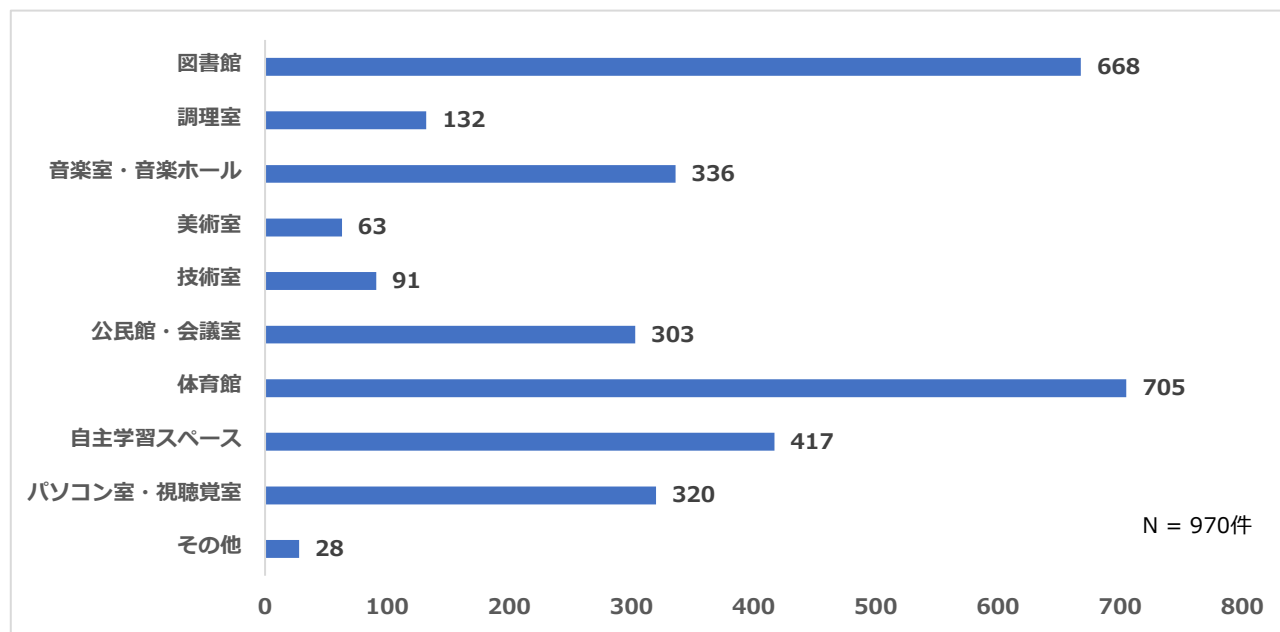
【3-5】地域の学校・複合化について

質問 16 地域における学校の役割（2 つまで選択）



地域における学校の役割として期待することを調査しました。「**子どもの放課後の居場所・活動場所**」としての機能が最も期待されており、次いで「**地域コミュニティの活動・交流の拠点**」、「**地域の防災拠点**」としての機能が期待されています。

質問 17 住民に開放される施設で希望するもの（2 つまで選択）



学校にある施設で住民に開放されたら良いと思うものを調査しました。「**体育館**」が最も望まれており、「**図書館**」、「**自主学习スペース**」が次いで望まれています。

【参考】本アンケート調査の精度（標本誤差・信頼度）について

アンケート調査では、集めた回答（標本¹）を元に、全体（母数²）の意見を推計しますが、アンケート調査から得られた回答は誤差が生じる可能性があり、その誤差を「標本誤差」と呼びます。アンケート調査を実施する際は、この標本誤差を何パーセントまで許容するか、また、母数の意見の推計を100回行った場合、何回がその許容する誤差の範囲内に収まるかの「信頼度」（正確性の保証）を考慮します。通常行われるアンケート調査では、許容できる標本誤差を5パーセント未満、信頼度を95パーセントと設定するのが一般的です。

（1）標本誤差の計算式（95%信頼度）

$$\text{標本誤差} = 1.96 \times \sqrt{\frac{p(1-p)}{N}}$$

p : ある選択肢の回答値、 N : 標本数

標本誤差は、 $p = 0.50$ の時に最大となり、この時標本数と標本誤差の関係は次の表のとおりです。

標本数	100	400	500	1,000	2,000	3,000	5,000
標本誤差の目安	±9.8%	±4.9%	±4.4%	±3.1%	±2.2%	±1.8%	±1.4%

本アンケート調査では、1,002 件の回答（標本）を得ており、100 回調査を行っても 95 回は、許容誤差 3.1%以内の回答を得ていると言えます。

（2）母数平均推計の計算式（95%信頼度）

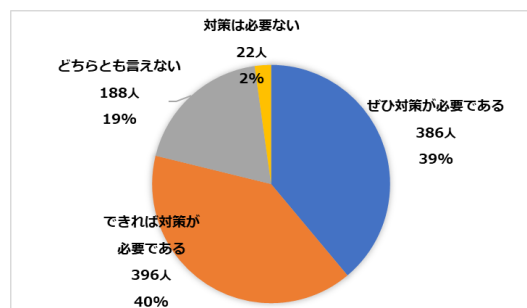
$$p - 1.96 \times \sqrt{\frac{p(1-p)}{N}} \leq P \leq p + 1.96 \times \sqrt{\frac{p(1-p)}{N}}$$

p : ある選択肢の回答値、 N : 標本数、 P : 全体の回答値（推計）

（3）本アンケート調査での事例

質問 6 を例にとると、右図のような回答（標本 992 件）がありました。これを元に全体（母数）の回答は、95 パーセント信頼度で次の表のとおり推計することができます。

	ぜひ対策が必要である	できれば対策が必要である	どちらとも言えない	対策は必要ない
アンケートの回答値	38.91%	39.92%	18.95%	2.22%
全体の推計値	35.88%～41.95%	36.87%～42.97%	16.51%～21.39%	1.30%～3.13%



¹ 今回の調査では、アンケート回答数である 1,002 が標本数となる

² 今回の調査では、18 歳～79 歳までの村民 17,320 が母数となる